

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「正解が一つではない問い」を重視した授業を積極的に展開することで、生徒が自ら課題を発見し、解決する力や思考力・判断力・表現力等を育み探究する力の育成を目指した授業改善を行う。 ②時代や社会の変化に柔軟に対応でき、未来を考えられる資質・能力の育成のための教育課程の編成に取組む。	①「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を充実させ、生徒が自ら課題を発見し、解決する力を育成できる授業展開を指して、授業改善及び授業力の向上を図る。 ②教育課程の趣旨について職員全体で共通理解を図り、生徒の資質・能力を育成するための教育内容の充実を図る。令和8年度入学生から大幅に変更された教育課程については、状況に応じて適宜見直しを行う。	①「個別最適な学び」及び「協働的な学び」をテーマとした研究授業や研究協議会等の職員研修を実施し、職員相互の学び合いの場を積極的に設定することで、組織的な授業改善を推進する。 ②新しい教育課程の下で、生徒の学びをより充実させるとともに、進路実現に資するものとなるよう、3年間を見通した指導計画を策定する。また、その実施状況を踏まえ、必要に応じて教育課程の見直しを行う。	①生徒による授業評価アンケートにおいて、「かなり当てはまる」の割合が、全教科平均で4割を超えているか。 職員アンケートにおいて、「『個別最適な学び』『協働的な学び』を意識した授業が昨年度より展開できた」と回答した職員の割合が5割を超えているか。 ②教科会、グループ会議、教育課程検討会議等を通じて、教育課程の趣旨を職員全体で共有する機会が設けられ、より良い教育課程とするための見直しが行われたか。 新教育課程に対応した、生徒の科目選択方法等について、具体的な運用方法を構築できたか。					
2	生徒指導・支援	①生徒の主体性や創造力を育むべく「生徒の自治」を支援し、生徒主体の学校行事や生徒会活動で培った力を学校生活や学習活動に生かせる生徒集団を育成する。 ②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や他者に対する思いやりのある行動ができる力を育成する。 ③健康や安全に関する学習活動や支援を通じ、生徒がお互いの個性・特性を尊重することで、安心して学校生活を送れる環境を整える。	① 生徒会活動や学校行事において、生徒が主体的に企画・運営に参画する機会を充実させるとともに、協働して課題を解決する経験を通して、自治的に行動できる集団の育成を図る。 ② 部活動への主体的な参加を促し、安全意識の定着を図るとともに、仲間を尊重し、協力して活動できる態度の育成を図る。 ③健康や安全に関する学習活動や支援を充実させるとともに、互いに尊重し合える関係性を育み、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを推進する。	① 文化祭・体育祭等の学校行事において、実行委員会を中心とした生徒主体の企画・運営が円滑に行われるよう、教員が助言者として関わりながら組織的に支援する。 ② 部長会を通じた安全講習会を年に数回実施するとともに、学年を越えた声掛けや協力を促し、互いを思いやる行動が日常的に実践できるよう支援する。 ③交通安全指導、SNS リテラシー教育、薬物乱用防止教育及び性教育を計画的に実施するとともに、SC・SSW等の専門職や関係機関との連携体制を整備し、支援が必要な生徒に迅速かつ組織的に対応する。加えて、サポートドックやプッシュ型面談を活用し、課題の早期把握と未然防止を図る。	①学校行事において、生徒が主体的に企画・運営に関わり、話し合い活動や役割分担を通して、協力しながら課題解決に取り組む姿が見られたか。 ②安全に対する意識が定着し、事故防止に向けた行動が継続的に見られるとともに、活動の立案や運営に主体的に関わる生徒が増えているか。 ③SNS に起因する対人トラブルや危険な登下校マナーに関する問題が生じなかったかを検証するとともに、SC・SSW や外部機関との情報共有を定例化し、教職員が一人で抱え込まない支援体制が定着したかを評価する。あわせて、専門職を交えた組織的な支援方針決定や、生徒の小さな悩みを早期に把握し対応できたかを確認する。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己の高みを目指した目標設定及びその実現への支援を図る。 ②教育情勢を的確に把握し、適切な情報の収集と周知、共有に努めるとともに、組織的な支援体制を構築する。	①本校の進路指導方針に基づき、3年間を見通した系統的な進路指導体制を構築し、職員の共通理解を図るとともに、そのモデルに沿った各学年の指導を推進する。 ②大学進学をめぐる情勢を的確に把握し、職員研修の充実を図るとともに、保護者への情報発信を拡充する。	①「総合的な探究の時間」と連動した進路指導を実践し、生徒との面談の機会を充実させることで、高みを目指す目標設定を促す。 ①自習室内の教材や各教室に設置された進路関連の情報資料を整理・充実させ、日常的な情報提供を通して、生徒の進路に対する意識の醸成を図る。 ②目的を明確にした職員対象の進路研修会を実施し、職員の進路指導力の向上を図る。 ②保護者説明会の内容や運営の改善を図るとともに、目的を明確にした面談を実施する。	①生徒の進路希望において、自己理解の深まりとともに、難関大学を目指すなど、より高い目標設定への変化が見られたか。 ②職員及び保護者を対象としたアンケートを適宜実施し、意識の変化を把握・分析することで、その後の計画に生かす。					
4	地域等との協働	①生徒に地域の一員であるという意識を持たせ地域等と協働・交流を行うことで、広い視野を持って何事にも取り組んでいける生徒を育成し、信頼される学校づくりを行う。 ②「いのちを守る」ために主体的に行動する態度の育成を目指した防災教育を実践する。	①地域との協働・交流活動を充実させ、生徒が地域社会の一員として主体的に関わろうとする意識を高める。 ②状況を正しく判断し、自他の命を守るために、防災意識を高め、自ら考え行動できる力を養う。	①地域行事やボランティア活動への参加を推進するとともに、学校内外での活動を振り返る機会を設け、地域と関わることの意義について考えを深めさせる。 ②訓練開始直前に「避難経路の一部が使用不可」といった突発的な状況を付加し、その場で状況を判断して避難ルートを切り替える実践的な避難訓練を実施する。	①学校アンケート等において、「地域の一員として地域に関わろうとしている」と肯定的に回答する生徒の割合が向上しているか。 ②「いのちを守る」ためにも自ら判断し、他者と協働しながら主体的に行動できる態度が身に付いているか。					
5	学校管理 学校運営	①施設、設備等の管理を徹底し、生徒の学習環境をより向上させる。 ②学校全体で校内美化に取り組み、生徒自身に環境整備に参画する意識を持たせる。	①生徒の活動の幅が広がるよう、物理的な環境の改善を進めるとともに、必要な物品を計画的に配備する。また、教室のエアコンの適正利用を促し、環境への配慮を通して生徒のエコロジー意識の向上を図る。 ②生徒と教職員が一丸となり、教室をはじめ、トイレ・廊下・流し・中庭等の公共の場の美化及び保全に取り組むよう働きかける。また、中学生や保護者等が学校見学に訪れた際には、伝統ある校舎や物品を長く大切に使用し、守り続けてきた本校の取組について積極的に伝える。併せて、美化活動にとどまらず、本校の魅力についても発信する。	①中庭の整備を行い、生徒の活動の場として有効に活用できる環境を整える。体育館で使用するパイプ椅子を50脚購入するとともに、老朽化したパイプ椅子については適正数を処分する。 HR 教室で使用する机及び椅子を、最低15セット購入し、学習環境の改善を図る。 また、生徒自らが教室に設置された温湿度計の数値を確認し、エアコンのオン・オフを適切に行えるよう、継続的に働きかけを行う。 ②清掃担当グループと連携し、清掃のポイントを明確に示して汚れが蓄積しないようにすることで、持続的な清潔感を保つ。 本校の魅力を様々な場面において、生徒が具体的に説明できるようにする。	①中庭の整備が計画どおり完了し、生徒の活動の場として実際に活用されたか。 購入を予定していた物品について、計画どおり又は計画数以上に整備することができたか。 生徒にエアコンの適正な利用についての理解と実践意識が見に付いたか。 ②校内美化を意識することで、清掃の大切さ・ゴミについての社会的問題・物品の適正な管理方法などを意識するようになったか、アンケートなどを用いて検証する。 学校の魅力を発信する取組において、生徒が主体的に参加しているという意識を醸成することができたか。					